

都市再生整備計画 フォローアップ報告書

前川周辺地区

平成26年1月

茨城県潮来市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	観光入込客数	万人/年	230	240	214	確定 ● 見込み	×	あり ● なし	220	H25年7月	×	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	東日本大震災の影響で、平成22・23年度の観光客数が減少したため、目標を達成できなかったが、徐々に増加してきている。
指標2	観光客のレポートした人の割合	%	82	87	88	確定 ● 見込み	○	あり ● なし	87	H25年6月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	水郷潮来あやめ園の整備により、水郷潮来あやめまつりを中心とした観光にまた来たいという方が増えています。
指標3	企業の立地件数	件		2	2	確定 ● 見込み	○	あり ● なし	2	H25年4月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	東日本大震災により、予定していた道路整備を休止としてしまった事業もあるが、関連事業である企業誘致により企業が増えました。
指標4						確定 ● 見込み		あり ● なし		H 年月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
指標5						確定 ● 見込み		あり ● なし		H 年月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1					確定 ● 見込み				H 年月			<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標2					確定 ● 見込み				H 年月			<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標3					確定 ● 見込み				H 年月			<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	水郷潮来あやめ園の環境整備	市民の方も集い、あやめ園整備事業を行い、草抜きやゴミ拾い等を行った。	震災以降、順調に観光客が増えている。	現在、平成26年度～30年度の都市再生整備計画を計画しており、その中に水郷潮来あやめ園の整備事業を取り入れている。
	潮来IC周辺の企業誘致	潮来IC周辺を中心に、企業誘致を行っている。	潮来IC周辺ではないが、計画区域内にメガソーラーの企業が1社誘致できた。	今後は、潮来IC周辺に企業を誘致していきたい。
	前川沿線地域の整備	事後評価後に実施したものはないが、今後、稲井川地区の道路整備を推進する。		現在、平成26年度～30年度の都市再生整備計画を計画しており、その中に稲井川地区の市道(潮)1655号線の整備事業を取り入れている。
改善策	東日本大震災からの早期復旧	計画区域内の震災による災害箇所への復旧工事を行った。	区域内の復旧はほぼ終わった。	更なる観光客の増加を目指し、水郷潮来あやめ園や道路等の整備を実施する。
・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	東日本大震災による休止事業の早期再開	稲井川地区の市道(潮)1655号線の整備計画を、平成26年度からの都市再生整備計画に取り入れた。	採択されれば、休止していた事業(市道(潮)1655号線)が再開できる。	現在、平成26年度～30年度の都市再生整備計画を計画しており、その中に稲井川地区の市道(潮)1655号線の整備事業を取り入れている。
	前川運動公園の更なる整備	前川運動公園にある多目的グラウンドと野球場の再整備と駐車場の整備を行った。多目的広場と芝生広場の整備は震災の影響で整備が遅れ、計画期間に整備を完了することが出来なかった。	整備が遅れていた広場を整備中であり、平成26年3月16日に竣工記念式典を開催、ハナモモの記念植樹もおこない、スポーツと憩いの場として整備できた。	潮来市のスポーツ交流の拠点の場として、ハナモモを活かした憩いの場として、今後スポーツだけではなく、さまざまな交流の場として来園者を増やし、更なる施設の管理及び整備を実施する。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画(精算報告)

まえかわしゅうへん ちく
前川周辺地区

いばらきけん いたこし
茨城県 潮来市

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	茨城県	市町村名	いたこし 潮来市	地区名	まきかわのうへんちく 前川周辺地区	面積	390 ha					
計画期間	平成	20	年度	～	平成	24	年度					
					交付期間	平成	20	年度	～	平成	24	年度

目標

大目標： **歴史と未来がとけ合うにぎわいのまち ～「水彩交流舞台 いたこ」～**

～潮来の地域資源や交通結節機能を活かし、水郷潮来を象徴する前川周辺地区(潮来駅周辺地区から潮来IC周辺地区までの区域)における「交流機能の活性化」や「産業の立地環境を整備」し、市民や訪れる人々が快適に過ごせる歴史と未来がとけ合うにぎわいのまちを、市民との協働により再創造する～

- 【目標1】 観光・交流資源の再整備やまちなか回遊性の向上を図り、水郷潮来の玄関口にふさわしい景観に配慮した、市民や訪れる人々が、快適に滞在し過ごせる空間づくりを推進する。
 【目標2】 既存市街地や潮来IC周辺地区における産業の立地環境を整備し、新たな賑わいの場を創造による。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・年間約210万人(平成18年度)の観光客を迎える「水郷潮来」、その玄関口であるJR潮来駅周辺から潮来インター周辺地区を結ぶ「前川周辺地区」は、潮来市の顔として中心的機能を果たしている。しかし、最も中心的な機能を担う潮来駅周辺地区は、観光形態が、個別形態化や宿泊滞在から、立ち寄り型に変化してきているため、年々宿泊客の減少が進み、県内有数の集客力を誇るホテル・旅館業は低迷している。
- ・商店街は、潮来駅及びあやめ園周辺に広がる商店街と「潮来らしい」情緒ある古からの商店街が形成される「潮来西部地区」からなる「前川周辺地区商店街」で、多くの観光旅館・ホテル、飲食店を含む水郷観光とも連動した、いわば「観光商業」の立地形態となっている。観光スポットではあるものの、近隣の大型商業施設への買物客の流出や観光の多様化に影響され、あやめまつりの期間に集中しがちな不安定な観光動態に依存する商店街は、空店舗化等の進展や入り込み客数の減少など、観光・商業・交流機能など求心力の低下が顕著になっている。
- ・旅館組合や周辺商店街、飲食店などが連携し、宿泊と食事を分離し、多様な滞在志向に対応する「まち食事業」の実施や多彩なイベント事業を実施し、その振興に努めている。
- ・質の高い歩行空間を整備するため、県道潮来・佐原線(潮来駅周辺)の電線地中化や歩道的美装化、市道的美装化など、道路景観の改善等がはじまっている。(まちなか回遊まちづくり事業)
- ・観光、交流拠点であると同時に、治水対策が課題の前川は、茨城県と潮来市により「前川ふるさとの川整備事業」がはじまっている(平成16年3月国土交通省認定)。その沿線地域は、良好な景観を伴った魅力ある都市空間の形成や水郷潮来を象徴する交流空間として期待されているが、それにふさわしい景観構成や統一感がない。
- ・首都圏はもとより、新東京国際空港との近接性を活かし、外国人観光客も視野に入れた交流人口の拡大を進めるため、潮来市、香取市、鹿嶋市からなる水郷三都観光促進協議会を設置し、その推進を図っている。
- ・潮来市は、鹿島開発の宅地供給を担うべく推進した区画整理事業以降の新たな人口定着(人口減少傾向)や都市機能の効率的な集積が進んでいない。一つには、産業拠点が少なく雇用環境が脆弱なことがあり、市街地内への商業・サービス機能の誘導や東関東自動車道潮来IC周辺地区をはじめとする企業誘致は市の命題となっている。
- ・水郷の自然景観や特産品、文化財や地域に残るイベント、祭りなど潮来らしさのある地域資源の利活用やネットワーク化をはじめ、地域文化の継承や情報発信、さらにはこれらを継続的に支えていくシステムは、まちづくりに不可欠である。農産物の直販や加工などの産業振興と観光交流の拠点施設として「道の駅いたこ」が整備されているほか、現在、各種ボランティア団体等が、環境・観光などへの取り組みをはじめている。

課題

- ・観光、交流、商業の中心である、潮来駅周辺地区や前川沿線地域は、良好な都市感覚、水郷潮来を象徴する交流空間として、再創造していくことが必要である。
- ・まち歩き観光を主体とした交流人口の拡大を図るため、休憩施設や質の高い歩行空間の整備が必要である。
- ・交流人口の拡大や雇用の場の確保を図り、新たな賑わいの場を創造するために、「前川運動公園(都市計画公園):整備中」や関東有数の集客を誇る「道の駅いたこ」を配する潮来IC周辺地区の、産業振興とスポーツ交流の拠点化が必要である。
- ・潮来市の都市再生のためには、観光資産や潮来らしさのある地域資源の再構築や利活用、そのネットワーク化をはじめ、地域文化の継承や情報発信、そしてこれらを継続的に支え、ホスピタリティの高い「あったかあいまち」にしていくための担い手や実効組織が求められている。市民の豊かさやより満足度の高いまちづくりを目指すことから、市民参加や協働の視点を踏まえ、広範な取り組みが必要となっている。

将来ビジョン(中長期)

- 潮来市第6次総合計画(平成15年度)及び潮来市都市計画マスタープラン(平成14年度)における「前川周辺地域」の位置づけ。
- ・水郷潮来の象徴である前川が連絡する潮来駅周辺から潮来インター周辺地区までの前川周辺地区は、観光とスポーツ交流、そして新たな産業の振興拠点となっている。特に、交流人口の拡大と雇用の場の確保を課題とする中で、前川運動公園や道の駅いたこを配する潮来IC周辺地区の、産業振興とスポーツ交流の拠点化を進めるものであり、51号バイパスや東関東自動車道の延伸が決定し、交通結節機能の拡充が図られることとなることから、中心地機能を担う潮来駅周辺や前川沿線地域とともに、観光・スポーツ交流、産業振興機能が一体化した潮来市のリーディング拠点化を目指す。潮来市では、これらの推進のために、市民や観光協会、商工会等と連携して、活性化を図ることとしている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
観光入込み客数	万人/年	潮来市を訪れる観光客数(入込客数調査)から推計	観光交流資源の再構築やまちなか回遊性の向上により、低迷している観光客数や宿泊客の増加を図る。(過去5年間のアベレージから5%の増加を目指す)	230	H18	240	H24
観光客のリポートしたい人の割合	%	観光客のリポートしたい人の割合をアンケート調査から推計	観光客のリピーターを増加させることは、伸び悩む観光客数の増加と消費拡大につながり、中心市街地の活性化につながる。(5%の増加を目指す)	82	H18	87	H24
企業の立地件数	件	計画期間内における新たな企業立地件数等	新たな賑わいの場を創造し、中心市街地の活性化を図る。新規の企業立地を推進する。			2	H24

